

1 単元名 かわってきた人々の暮らし — 古い道具と昔の暮らし —

2 目標

古くから残る道具の使い方や、それを使っていたころの暮らしの様子について調べることを通して、人々の知恵や工夫、生活の変化や暮らしの向上を目指した人々の願いがわかる。

3 単元について

○児童の実態

児童はこれまでに、「学校のまわり」や「スーパーマーケットの仕事」について、学習してきている。「学校のまわり」の学習では、学校のまわりを実際に歩きながら、交通の様子や建物の様子などをとらえ、地図に表すなどの活動を経験した。それらの学習を通して、体験の中から様々な社会的事象に気付いていったり、気付いたことを整理して表現していく見方・考え方が、身に付きつつある。しかし、その反面、一つの事象を細かくていねいに見るといった観察力に欠けているところが見られる。本単元では、それらをふまえ、じっくりと体験活動の場を保障していくことで、「なぜそのようになっているのだろう。」という気付きへとつなげていきたい。

今回学習する昔の道具や暮らしを調べる活動は、新鮮であり、興味深いものであると考える。実際に昔の道具を使う体験も魅力的であろう。今の段階では、実際に昔の道具を目にしたたり、使用したりした経験をもっている児童は、ほとんど見られない。また、祖父母等と同居している児童は少ないため、意図的に古い道具を教室内に集めたり、高齢者の方に道具の使い方やその頃の暮らしの様子を聞いたりする活動が、必要になると思われる。そして、物にあふれた現代の子どもたちが、昔の道具は不便で今の道具は便利という結論で終わることなく、昔の道具に込められた人々の工夫や知恵を実感できるようにしていきたい。

○教材観

本単元は、古くから残る暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの様子を調べることを通して、地域の人々の生活の変化や願いを考えていくことをねらいとしている。

ここでは、まず道具をしぼり、十分な体験の場を設けることで、昔の人の知恵や工夫、願いに気付かせていきたい。それは、たくさんの道具を調べたり体験したりしても、なかなか本質が見えてこないと考えるからである。

具体的な教材として、洗濯板を取り上げる。洗濯板は昔の道具でありながら、今なお使われている道具である。子どもたちは、全自動洗濯機で簡単に洗濯できる機械があるのに、どうしても使われているのだろうと思うことだろう。その問いを大切に、洗濯板での洗濯体験を行うことで、昔の人々の知恵や工夫を実感できるようにしたい。子どもたちは体験を通して、洗濯の大変さだけでなく、汚れを落としやすくするための工夫された波形の形状に気付くことだろう。

その後、洗濯の道具の変化を高齢者が子どものころの様子、父母が子どものころ、現在とたどることで、その道具を使っていたころの暮らしの様子と関連付けていく。これらの学習を通して、地域の人々の生活の変化や人々の願いを考えていけるようにしたい。

○指導観

導入にあたって、まず洗濯板を提示する。そして、洗濯板が現在も販売され使われていることから、「どうして、今でも使われているのだろう。」という問いをもたせていきたい。なぜなら、この問いを追究していけば、道具に込められている工夫や知恵だけでなく、道具の変化やそれに伴う生活の変化が関連付けてみえてくると考えたからである。まず、最初に体験を行うことで、溝が円形になっているなど、洗濯板の工夫や知恵に気付いていけるようにしていく。子どもたちは、洗濯をしながら、円形だからこそ石けん水がたまり、外に流れていかないことにも気付いていくであろう。そして、部分洗いができることや衣類の繊維を傷めないで洗えること。反対に、冬は冷たい水を我慢しながら洗濯をしていたこと。一つ一つ洗うのに時間がかかることなど、暮らしの様子にも気付いていくだろう。ここでは、できるだけ子どもたちが気付くまで見守り、体験の中でのつぶやきを大切にしていきたい。そして、この体験で気付いたことや分かったことを児童同士で話し合うことで、問題意識を高めていく。また、「ほかの道具にも工夫や知恵があるのではないか。」という予想を立て、一人一人の学習課題をつくっていききたい。

中盤では、洗濯板の他にもう一つ道具の移り変わりを調べていけるようにしていく。実際に体験するだけでなく、祖父母や父母への昔の暮らしの様子聞き取りを行っていききたい。また、必要に応じて郷土資料館（市立博物館）の見学等を行ったりしながら、それぞれの追究活動を進めていきたい。

終末には、それらの道具の移り変わりや暮らしの変化を絵年表にまとめていく。また、それぞれが作った絵年表を互いに比べ合うことで、生活の変化と道具の移り変わりを関連付けて、とらえていけるようにしていきたい。

4 「みえる」「わかる」子どもの姿

わかる
みえる

『よりよいくらしをしたい。』という昔の人々の願いや知恵と工夫があって、道具やくらしが変わってきたんだな。」

考える

どうして今でも洗濯板が使われているのだろう。 ①～③

昔の道具のよさとそれが使われていたころのくらしの様子について考えよう。 ④～⑧

道具やくらしはどのようにならなくなってきたのだろう。 ⑨～⑪

見える・分かる

・洗濯板は、部分的なよごれがよく落ちるということ

・洗濯板の溝には、さまざまな工夫や知恵があるということ

・おいしいご飯のたき方とかまどに知恵や工夫があるということ

・七輪にも炭をおこすためのいくつかの工夫があるということ

・昔の人は、いろいろな道具を工夫して作り、くらしをよくしてきたということ

・昔のくらしの中には手づくりのよさがたくさんつまっていること

・昔の道具の工夫が、今の道具にも生かされているということ

・道具の移り変わりとともに、生活も便利になってきたということ

学習材

○洗濯板・洗濯用石けん・たらい・物干し竿

○昔の道具を体験したときのメモ（気付いたこと）

○七輪・木炭・うちわ・マッチ・新聞紙・枝・やかん

○インターネットや書籍・祖父母や父母への聞き取り

○郷土資料室・市立博物館・歴史館の見学

○道具やくらしのようすについて調べた資料

○道具やくらしの移り変わりをまとめた絵年表

5 評価規準

- 昔の道具やそれらを使っていたころのくらしの様子に興味をもち、意欲的に追究しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 古くから残る道具の使い方やそれを使ったころの生活の様子を、今の生活との共通点や相違点からとらえ、道具の変化に伴う人々の生活の変化を考え、適切に表現している。
(思考・判断・表現)
- 昔のくらしの様子や移り変わりを調べ、それを使っていた人々の思いを絵カードや年表にまとめている。
(技能)
- 時代の移り変わりとともに、地域の人々の生活が変わっていることと、昔からよりよいくらしを願ってさまざまな工夫や努力をしてきたことを理解している。
(知識・理解)

6 単元の指導と評価の計画（11時間）（①・②は時数、◇は評価）

①	○昔の道具（洗濯板）を見てみよう。 ・見たことある。洗濯に使ったんだ。 ・どのようにして汚れを落としたのだろう。	◇ 洗濯板の使い方を通して、昔の道具に興味を持ち、追究しようとしている。（関心・意欲・態度）
②	洗濯板を使って洗濯してみよう。 ・溝が、円形になっているよ。 ・洗うのが、たいへんだな。	
③ (本時)	どうして、今でも洗濯板がつかわれているのだろう。 ・山のところでこすると、汚れが落ちるよ。 ・汚れているところだけを洗えるよ。 ・少ない水で洗える。洗濯機よりエコだね。 ・洗うのに時間がかかる。水も冷たい。大変だな。 ・洗濯板を使ってもよく落ちるんだね。	◇ 洗濯板を使った体験を通して、道具やくらしの工夫や知恵について考え、表現している。 (思考・判断・表現)
④ ⑤ ⑥	昔のよさが伝わっている道具は、どのようなものがあるだろう。 ○昔のよさが今でも生かされている道具を調べよう。 ・昔から変わらず使われているもの ・昔のよさが生きているもの ・形が変わったもの	◇ 洗濯板のほかにも道具の使い方やくらしのようすについて、関心を高めている。 (関心・意欲・態度)
⑦ ⑧	昔の道具のよさとそれが使われていたころのくらしの変化について考えよう。 ・「七輪」のひみつと私の家のくらし ・「もちつき」とお正月 ・「筆やすずり、和紙」について	◇ 昔の道具やくらしの工夫について調べ、まとめている。(技能)
⑨ ⑩ ⑪	○生活の変化を絵年表にまとめよう。 ・道具には、いろいろな人々の工夫があるんだね。 ・道具をくらしに生かし、上手に使ってきたんだね。 道具やくらしはどのように変わってきたのだろう。 ・道具の変化によって、人々のくらしも変わってきたんだね。昔の道具のよさも受け継いできているよ。 ・昔の道具はいろいろな工夫があっっておもしろい。昔の人ってすごいなあ。	◇ くらしの移り変わりを絵年表にまとめている。(技能) ◇ 道具の変化にとמוなう生活の変化を理解している。 (知識・理解)

7 本時の指導

(1) 目標

洗濯板の工夫に気付き、道具の移り変わりと生活の変化に対する問題意識を高めることができる。

(2) 授業づくりの課題

洗濯板体験をもとに、互いの気付きを話し合うことにより、昔の人々の知恵や工夫に気付いたり、生活の変化に対する問題意識を高めたりすることができるであろう。

(3) 展開

学習活動・内容	児童への働きかけ・評価
<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうして今でも洗濯板は、使われているのだろう。</p> </div> <p>2 洗濯板には、どのような知恵や工夫があるのか体験したことをもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板は、直接こすって洗うので落ちにくい汚れが落ちる。 ・洗濯板のみぞが曲がっているのは、石けん水がたまるようする工夫だ。 ・みぞにたまった石けん水のところで洗うのでエコだ。 ・すすぎの時、洗濯板を反対向きにすることで石けん水がおちやすくなる。 ・洗濯板だと、水をたくさん使わなくてすむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうして今でも洗濯板が使われているのだろう。」という児童の疑問を投げかける。 ・洗濯板を使った洗濯体験と、その時のメモをもとに気付いたことを発表できるようにしていく。 ・洗濯板を用意し、実際に使いながら説明できるようにする。 ・本当に洗濯板にはよさがたくさんあるかどうか、場を設定し、児童にゆさぶりをかける。 <p style="text-align: right;">(一斉 話し合い)</p>
<p>3 洗濯の様子から、くらしの様子や人々の工夫、昔の道具のよさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板を使っていた洗濯は、いつごろからやっているのだろうか。 ・洗濯板は、洗濯機より汚れがきれいに落ちるのだろうか。 ・一つのを洗うのにけっこう時間がかかる。どのくらいの洗濯をしたのだろうか。 ・洗濯板とたらいだと、洗ったりすすいだりする水は、あまり使わなかったのではないかな。 ・洗濯板だと、冬は水がつめたくて大変だと思う。昔の人は根気強い。 ・昔の人は今よりのんびりした生活をしていたのだろうか。 ・お正月の前は、いつも杵と臼でもちつきをやっているよ。 ・ときどき炭のコンロを使って焼き肉をやっているよ。どうしておいしいのかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板での洗濯時間など、具体的なイメージをもてるようにする。 ・洗濯板を使っていた頃の絵の様子から、くらしの様子をながめ、今との違いに気付くようにする。 ・洗濯板を使っていた頃のくらしの絵をもう一度見て、洗濯板のように今でも使われている道具について考えていけるようにする。 ・洗濯板の体験でお世話になった人から、児童の気付かないくらしの様子(よかったところ)について話をしてもらおう場を設ける。 ・冬は、冷たい水をはがまんしながら洗濯をしていた当時の人々の苦労などについて洗濯体験や話を聞くことで、気付くようにする。 ・子どもたちの一つの意見や考えをもとに、内容がつながっていくように発言を促していく。
<p>4 話し合いをもとに、学習課題を確認し、一人一人の学習課題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具は、どう変わってきたのだろうか。 ・今でも昔からの道具のよさを生かし、使われているものは何だろうか。 ・形や見かけは違うけど、昔の道具のよさやはたらきが生きているものは何だろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを通して、各自が学習課題をもてるようにする。 ㊦ 洗濯板を使っていた人々の知恵や工夫、願いについて考え、学習課題をもっている。 <p style="text-align: right;">(思考・判断・表現)</p>